

日本語課外補講報告 (2018年4月～2019年3月)

小木曾 左枝子
田中 信之

1 はじめに

日本語課外補講は、富山大学に在籍する外国人留学生及び外国人研究者であれば誰でも受講できるプログラムである。日常生活や大学での学習・研究活動に必要な日本語の習得を目指して、初級、中級、上級の3つのレベル別クラスを開講している。2018度は、前期(2018年4月～9月)と後期(2018年10月～2019年3月)にそれぞれ15週間開講した。

以下、2018年度の日本語課外補講の実施状況について報告する。なお、富山大学で実施されている日本語課外補講は、五福キャンパスにおいて国際機構が実施するものと、杉谷キャンパスにおいて医学部所属の日本語・日本事情担当教員が中心となり実施するものがある。本稿では2018年度に五福キャンパスで国際機構が実施した日本語課外補講について報告する。

2 受講者

前期は、初級クラスが19人(うち4人は中級クラスも同時に受講)、中級クラスが37人(うち4人は初級クラス、4人は上級クラスも同時に受講)、上級クラスが30人(うち4人は中級クラスも同時に受講)、計78人が日本語課外補講(ライデン大学短期日本語研修プログラム、総合日本語コースを含む)を受講した。78人の在籍身分別の内訳は、大学院生22人、特別聴講学生33人、研究生8人、特別研究学生6人、科目等履修生(県費留学生、日本語・日本文化研修留学生)7人、特別研究員1人、外国人研究員1人である。国・地域別の内訳は、中国30人、オランダ13人、台湾7人、韓国6人、タイ4人、ベトナム、ロシア各3人、フィリピン、インド、インドネシア、各2人、バングラデシュ、イタリア、モンゴル、ブラジル、ウクライナ、ドイツ各1人である。また、所属別の内訳は、理工学教育部22人、人文学部15人、人間発達科学部14人、経済学部11人、経済学研究科8人、医学薬学教育部2人、工学部、理学部、薬学部、医学部、人間発達科学研究科、人文科学研究科、各1人である。

後期は、初級クラスが28人、中級クラスが19人(うち4人は上級クラスも同時に受講)、上級クラスが38人(うち4人は中級クラスも同時に受講)、計81人が日本語課外補講(総合日本語コースを含む)を受講した。81人の在籍身分別の内訳は、研究生28人、大学院生19人、特別聴講学生14人、特別研究学生10人、科目等履修生(県費留学生、日本語・日本文化研修留学生)6人、研究員2人、研究留学生2人である。国・地域別の内訳は、中国44人、台湾6人、インド、ベトナム、タイ各4人、バングラデシュ、韓国、ロシア各3人、モンゴル2人、イタリア、ポーランド、フィリピン、マレーシア、チリ、ベルギー、ブラジル、インドネシア各1人である。また、所属別の内訳は、理工学教育部15人、人文学部14人、経済学部13人、経済学研究科11人、工学部10人、人間発達科学部6人、人文科学研究科、医学薬学教育部、生命融合科学教育部各3人、理学部2人、芸術文化学部、人間発達科学研究科、和漢医学総合研究所各1人である。

なお、協定校からの短期留学生については、ライデン大学からの交換留学生を除き、日本語課外補講中級・上級クラスで開講されている科目を総合日本語コースの科目として受講している(詳細は、総合日本語コース報告を参照のこと)。ライデン大学からの短期留学生は、ライデン大学短期日本語研修プログラム用に開講されている科目以外に、日本語課外補講中級クラスで開講されている科目をライデン大学短期日本語研修プログラムの科目として受講している(詳細は、ライデン大学短期日本語研修プログラム報告を参照のこと)。

3 授業担当者

2018年度前期は、国際機構専任教員5人（小木曾左枝子，副島健治，田中信之，バハウ・サイモン・ピーター，濱田美和），および，非常勤講師6人（田上栄子，中野香保里，藤田佐和子，松岡裕見子，要門美規，横堀慶子），2018年度後期は国際機構専任教員5人（小木曾左枝子，副島健治，田中信之，バハウ・サイモン・ピーター，濱田美和），および，非常勤講師6人（高島智美，田上栄子，中河和子，中野香保里，藤田佐和子，要門美規）が授業を担当した。コーディネーターについては，前期は専任教員（当時）の小木曾左枝子，後期は専任教員の田中信之が担当した。

4 授業日程

前期は2018年4月11日（水）～7月30日（月）を授業期間とした。曜日調整のため，5月2日（水）は月曜日の授業を行った。後期は2018年10月9日（火）～2018年2月8日（金）を授業期間とした。曜日調整のため，11月21日（水）は月曜日の授業，11月22日（木）は金曜日の授業を，1月15日（火）は月曜日の授業を行った。また，12月25日（火）～1月4日（金）は冬季休業，1月18日（金）は大学入試センター試験準備日のため，休講とした。

オリエンテーションは，前期は4月4日（水），後期は10月3日（水）に開催した。専任教員5人（小木曾左枝子，副島健治，田中信之，バハウ・サイモン・ピーター，濱田美和）がオリエンテーションを行った。オリエンテーションの案内は，国際機構のホームページに掲載する他，日本語，英語，中国語の3カ国語表記で作成した案内を五福キャンパス内の各学部及び国際機構棟談話室に掲示した。国際機構のホームページでは，時間割や授業概要（日本語，英語版を用意）の閲覧，そして，受講申請書をPDFファイルとしてダウンロードできるようにした。オリエンテーションでは，受講希望者一人一人と国際機構専任教員が面談し，受講者の日本語習熟度に応じたクラスを紹介し，受講申請書の提出により，登録を行った。ただし，来日時期が遅れる学生等については，各クラスの担当者（初級クラスは田中信之，中級クラスは小木曾左枝子（前期）・副島健治（後期），上級クラスは濱田美和）が面談を行った上で，開講期間の途中からの受講も認めた。

5 授業内容

5.1 時間割

前期，後期ともに週35コマ授業を行った。前期の時間割を表1，後期の時間割を表2に示す。

表1 2018年度前期 日本語課外補講（五福）時間割

曜	限	初級クラス	中級クラス	上級クラス
月	1	文法 A1（横堀）	文法 B1（小木曾）	
	2	文法 A1（横堀）	文法 B1（小木曾）	表現技術 C1（濱田）
	3	漢字 A1（小木曾）		漢字 C1（濱田）
	4		漢字 B1（濱田）	
火	1	文法 A1（中野）	文法・表現 B1a（要門）	
	2	生活日本語 A1a（バハウ）	文法・表現 B1a（要門）	作文 C1（松岡）
	3	聴解・会話 A1（藤田）	聴解・会話 B1b（田中）	会話 C1（松岡）
	4		プレゼンテーション B1（濱田）	読解 C1a（藤田）

水	1		文法 A1 (要門)	文法・表現 B1b (田上)	
	2		文法 A1 (要門)	文法・表現 B1b (田上)	
	3				日本文化 C1 (松岡)
	4				聴解 C1 (要門)
木	1		文法 A1 (田中)	文法・読解 B1a (副島)	
	2	生活日本語 A1b (小木曾)	文法 A1 (田中)	文法・読解 B1a (副島)	文法 C1 (濱田)
	3				
	4				読解 C1b (田中)
金	1		文法 A1 (横堀)	文法・読解 B1b (松岡)	
	2		文法 A1 (横堀)	文法・読解 B1b (松岡)	
	3			作文 B1 (田中)	

* 1限 8:45～10:15, 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15

表2 2018年度後期 日本語課外補講 (五福) 時間割

曜	限	初級クラス	中級クラス	上級クラス	
月	1		文法 A2 (田上)	文法 B2 (副島)	
	2		文法 A2 (田上)	文法 B2 (副島)	表現技術 C2 (濱田)
	3			漢字 B2 (濱田)	作文 C2 (田上)
	4				漢字 C2 (濱田)
火	1		文法 A2 (田中)	文法・表現 B2a (高島)	
	2	生活日本語 A2a (バハウ)	文法 A2 (田中)	文法・表現 B2a (高島)	
	3		聴解・会話 A2 (藤田)	聴解・会話 B2 (副島)	会話 C2 (高島)
	4				読解 C2a (藤田)
水	1		文法 A2 (要門)	文法・表現 B2b (中河)	
	2		文法 A2 (要門)	文法・表現 B2b (中河)	
	3				聴解 C2 (要門)
	4				日本文化 C2 (中河)
木	1		文法 A2 (中野)	文法・読解 B2a (副島)	
	2	生活日本語 A1b (小木曾・バハウ)	文法 A2 (中野)	文法・読解 B2a (副島)	文法 C2 (濱田)
	3		漢字 A2 (小木曾)	作文 B2 (濱田)	
	4				読解 C2b (田中)
金	1		文法 A2 (田中)	文法・読解 B2b (中野)	
	2		文法 A2 (田中)	文法・読解 B2b (中野)	

* 1限 8:45～10:15, 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15

5.2 初級クラスの授業内容

初級クラスでは、前期、後期ともに、午前は月曜日から金曜日まで毎日2コマ連続で「文法」の授業を行った。午後は「聴解・会話」、「漢字」の授業を各科目とも週1回1コマ行った。また、毎日、日本語の授業に出席することが困難な学生のために、「生活日本語」を開講し、前期と後期ともに週2

コマ、授業を行った。

「文法」の授業週（10コマ）では、『みんなの日本語 初級』Ⅰ、Ⅱ第2版（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、教科書を1日1課ないしは2日に1課のペースで初級文型の導入及びその定着のための練習を行った。授業の最初に、『毎日の発音練習』（独自開発教材）を用いた発音練習、語彙テスト（前課のディクテーションを含む）も適宜取り入れた。

表3 初級クラス「文法」（『みんなの日本語 初級』）の授業進度

第1週	1課～3課		第9週	28課～30課	
第2週	4課～6課	1課～6課試験	第10週	31課～33課	26課～32課試験
第3週	7課～12課		第11週	34課～37課	
第4週	13課～14課	7課～12課試験	第12週	37課～39課	33課～38課試験
第5週	15課～18課		第13週	40課～43課	
第6週	19課～21課	13課～18課試験	第14週	44課～45課	39課～45課試験
第7週	22課～25課		第15週	47課～50課	
第8週	26課～27課	19課～25課試験			

「聴解・会話」の授業では、初級クラス「文法」の時間に学んだ文法事項を定着させるため、『みんなの日本語初級 聴解タスク25』（スリーエーネットワーク）を中心に様々な聴解練習を行った。また、応用会話練習を行い、聞く力と話す力、コミュニケーション能力を伸ばすことを目指した。

「漢字」の授業では、『(新版) Basic Kanji Book Vol.1』（凡人社）をメインテキストとし、漢字を勉強するために必要な知識を身につけると同時に、漢字の読み書きが正確にできるようになることを目指した。また、自分に適した漢字学習ストラテジーを身につけるためのディスカッション等も行った。「生活日本語 a」の授業では、『Basic Japanese for Students はかせ』〈1〉（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、1回の授業で1課進むペースで初級文型の導入及び会話力を伸ばすための練習を中心に行った。

「生活日本語 b」の授業では、文字学習も行いながら、日常生活に必要な日本語を身につけることを目標とした。教科書は使わず、メニューなどの生教材や自作教材を用いたりし、入門期に必要な基本的な文型や語彙・表現を学びながら、かなを認識できるようにし、そして身近な話題で対話ができるようにすることを目指した。

5.3 中級クラスの授業内容

中級クラスでは、前期は、「文法・表現」、「文法・読解」の授業を各科目とも週2日2コマ連続で各4コマ、「文法」の授業を週2コマ、「聴解・会話」と「漢字」「プレゼンテーション」の授業を各科目週1コマ行った。後期は、「文法・表現」、「文法・読解」の授業を各科目週2日2コマ連続で各4コマ、「文法」の授業を週2コマ、「聴解・会話」、「漢字」、「作文」の授業を各科目週1コマ行った。

「文法・表現」の授業では、『ジェイ・ブリッジ』（凡人社）をメインテキストとして、3コマの授業で1課進むペースで、初級の文型や表現を整理、復習するとともに、中級の文型や表現を導入し、それらを大学生活で遭遇する場面や様々なトピックに合わせて、運用できるよう談話練習なども行った。「文法・読解」の授業では、『日本語中級 J301』、『日本語中級 J501』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、『日本語中級 J301』は1日（2コマ）の授業で1課進むペース、『日本語中級 J501』は2日（4コマ）の授業で1課進むペースで、それぞれ中級の語彙や文法事項を導入し、主に読解の力を伸ばすための練習を行った。

「文法」の授業では、『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、2コマ

の授業で1課進むペースで、初級文型の確認をしながら、初中級レベルの文型・表現の導入及び練習を行った。また、学習項目の定着をはかるために作文や会話などの応用練習も行った。

「聴解・会話」の授業では、日本の社会や文化を題材としたニュース、友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話などを教材として使用し、聴解を中心に練習を行った。

「漢字」の授業では、『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』Vol.1 (凡人社) を用いて、漢字・漢字語の読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。

「作文」に関しては、前期の授業では、自分の考えを、根拠を挙げて筋道を立てて書けるようにすること、文法・語彙・表現を適切かつ効果的に使用できるようにすることを目標とし、作文の基礎を学び、協働的作業も行いながら、論理的な文章が書けるように練習を行った。後期の授業では、『小論文への12のステップ』(スリーエーネットワーク) をメインテキストとして、論理的な文章を書くための構成や表現を学び、練習を行った。

「プレゼンテーション」の授業では、大学での学習や研究で必要となる、日本語での情報収集と基本的なプレゼンテーションの行い方を指導した。

5.4 上級クラスの授業内容

上級クラスでは、前期、後期ともに、「読解」の授業を週2コマ、「作文」、「聴解」、「会話」、「文法」、「表現技術」、「日本文化」の授業をそれぞれ週1コマ行った。上級クラスの授業は、2期連続して受講する学生のために、以前から前期と後期で扱うテーマや教材等を変えて対応しているが、授業目的や進め方等の授業概要は同じであるため、以下、まとめて報告する。

「読解」の授業は、前期は「読解 C1a」と「読解 C1b」の授業名で、後期は「読解 C2a」と「読解 C2b」の授業名で2科目を設けた。「読解 C1a」は『絶対合格！日本語能力試験徹底トレーニング N1 読解』(アスク出版) を、「読解 C2a」は『新完全マスター読解 日本語能力試験 N1』(スリーエーネットワーク) をメインテキストとし、文章のしくみを理解し、細かい部分を正確に読み取る練習を行った。また、各人の漢字語彙力向上のサポートとして、語彙マップを用いての漢字語彙の導入、自宅学習後の小テストをクラス内で行った。「読解 C1a」「読解 C2b」は、協働的な活動を通して批判的に読む能力を身につけることを目標とし、テキストの理解を深め、クラスメイトへの理解を深め、自分自身の考えを深め、自分のことを振り返ることができるように練習を行った。

「作文」の授業では、コンピュータを使用しながら、レポートや論文を書く際に必要となる論理的な文章の書き方の練習を行った。『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(東京大学出版会)、『大学・大学院留学生の日本語4 論文作成編』(アルク) 等を参考書とし、練習問題等はプリント、または電子ファイルで提供した。

「聴解」の授業では、聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いて、大学生活や日常生活に必要な聴解練習を行った。

「会話」の授業では、ロールプレイ等を通して、大学生活や日常生活で出会う場面、状況での会話を伸ばす練習を行った。また、様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する練習、意見や感想を述べる練習を行った。

「文法」の授業では、前期は『新完全マスター文法 日本語能力試験 N1』(スリーエーネットワーク)、後期は『日本語能力試験レベルアップトレーニング N1』(アルク) をメインテキストとし、大学での学習、研究生生活に必要な上級レベルの文法・表現について、演習形式で確認した。日本語能力試験の受験対策もあわせて行った。

「表現技術」の授業では、目上の人とのやり取りや、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現を確認した後、メールやメモなど日常的・実用的な文章の書き方やプレゼンテーション・スライドを利用した口頭発表の練習を行った。

「日本文化」の授業では、テレビ番組、アニメ映画、漫画、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを使用して、現代日本の流れ、若者の声、教育問題、ジェンダーといった視点から現代日本社会の問題を考えた。

「漢字」の授業では、『漢字 1000PLUS INTERMEDIATE KANJI BOOK』Vol.2 (凡人社) を使用して、読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。

6 試験

初級クラス「文法」「聴解・会話」では、7回の定期試験を実施した。定期試験の内容は、筆記試験、聴解試験、会話試験である。初級クラス「生活日本語 a」及び「生活日本語 b」では中間試験と期末試験を、「漢字」では数回の確認テストと期末試験を実施した。

中級クラスでは、「文法・表現」「文法」「聴解・会話」「作文」はそれぞれ中間試験と期末試験を、「文法・読解」は3回の定期試験を実施した。「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施した。「プレゼンテーション」は口頭発表を課した。

上級クラスでは、「読解 C1a」「読解 C2a」「文法」「聴解」「表現技術」はそれぞれ期末試験を実施した。「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施した。「読解 C1b」「読解 C2b」「作文」は期末レポートを、「会話」「表現技術」「日本文化」は発表を課した。

7 カリキュラムについてのアンケート結果

日本語課外補講の受講者に対して、授業内容とカリキュラムに関するアンケート調査を前期と後期の授業期間中に実施したが、ここではカリキュラムに関するアンケート結果をまとめる。

カリキュラムに関するアンケート調査は、1人の学生が複数の科目を受講している場合も、1回のみ回答する形とした。表4に前期、表5に後期の結果をまとめた。なお、自由記述については、基本的に学生が記述した通りに掲載している。

表4 前期のカリキュラムについてのアンケート結果 (回答者 20人)

1. どこでオリエンテーションのことを知ったか (複数回答)	オリエンテーション出席者 (20人) ・オリエンテーションの掲示を見た (2人) ・専門の先生にきいた (5人) ・国際機構の先生にきいた (4人) ・事務の人にきいた (2人) ・友だちにきいた (4人) ・その他 (2人) : 県庁の人 2人 ・無回答 (2人)
日本語課外補講をどこで知ったか (複数回答)	オリエンテーション欠席者 (0人) ・専門の先生にきいた (0人) ・国際機構の先生にきいた (0人) ・友だちにきいた (0人) ・その他 (0人) :
2. どのクラスに出席したか	初級 : 8人 初級と中級 : 1人 中級 : 9人 上級 : 2人
3. 授業科目数の希望	今のままでいい (18人) : 初級 7人, 初級と中級 1人, 中級 8人, 上級 2人 今のままでいいと多くしてほしい (1人) : 初級 1人… (無記入 1人) 多くしてほしい (0人) 少なくしてほしい (1人) : 中級 1人… (無記入 1人)
4. 授業科目の希望	今のままでいい (20人) : 初級 8人, 初級と中級 1人, 中級 9人, 上級 2人 新しい科目を作ってほしい (0人)
5. 来期の授業時間帯の希望	いつでもいい (9人) : 初級 3人, 初級と中級 1人, 中級 4人, 上級 1人 専門の時間割がわからないので答えられない (3人) : 初級 1人, 中級 1人, 上級 1人 午前 1・2限 (8人) : 初級 4人, 中級 4人 午後 3・4限 (0人) その他 (0人) :

その他

コメントなし

表5 後期のカリキュラムについてのアンケート結果 (回答者 28 人)

1. どこでオリエンテーションのことを知ったか (複数回答)	オリエンテーション出席者 (20 人) ・オリエンテーションの掲示を見た (1 人) ・専門の先生にきいた (6 人) ・国際機構の先生にきいた (6 人) ・事務の人にきいた (8 人) ・友だちにきいた (2 人) ・その他 (2 人): 県庁の人 2 人 ・無回答 (1 人)
日本語課外補講をどこで知ったか (複数回答)	オリエンテーション欠席者 (8 人) ・専門の先生にきいた (1 人) ・国際機構の先生にきいた (1 人) ・友だちにきいた (2 人) ・事務の人にきいた (1 人) ・その他 (2 人): 前学期に 1 人 県庁の人 1 人 ・無回答 (1 人)
2. どのクラスに出席したか	初級: 15 人 中級: 10 人 上級: 5 人
3. 授業科目数の希望	今のままでいい (26 人): 初級 14 人, 中級 9 人, 上級 3 人 多くしてほしい (1 人): 初級 1 人 If the numbers of classes is more these is more chance for the practice. 少なくしてほしい (1 人): 中級 1 人
4. 授業科目の希望	今のままでいい (28 人): 初級 15 人, 中級 10 人, 上級 3 人
5. 来期の授業時間帯の希望	いつでもいい (7 人): 初級 4 人, 中級 3 人 専門の時間割がわからないので答えられない (14 人): 初級 6 人, 中級 6 人, 上級 2 人 午前 1・2 限 (4 人): 初級 4 人 午後 3・4 限 (2 人): 初級 1 人, 上級 1 人 その他 (1 人): 中級 1 人… (帰国する 1 人)

その他

- ・充実しています。(初級)
- ・ All the teacher are very helpful. (初級)
- ・ Please next semester it all same teacher. I love them. (初級)
- ・ I have a time for learn Japanese class only morning because afternoon and night I have experiment. (初級)
- ・ Nice class. (初級)
- ・ 日本語をおぼえるために、日本語のゲームがあったほうがいいです。(中級)
- ・ いろいろなことを教えてもらって、お世話になりました。生活など役に立ちます! (中級)

アンケート結果から、オリエンテーション出席者は、専門の教員や国際機構教員、あるいは事務から情報を得ていることがわかる。オリエンテーションの掲示を見て出席したという回答は少数である。一方、オリエンテーション欠席者は友人などから情報を得ている。授業科目数や内容については「今のままでいい」という回答が多く、現在の日本語課外補講の授業科目や内容に満足していることが窺える。授業時間帯については、「いつでもいい」と「専門の時間割がわからないので答えられない」という回答が多かった。在籍身分の違いにより、専門の授業数が大きく異なるためだと思われる。

8 おわりに

昨年度よりライデン大学短期日本語研修プログラムが開始し、今年度は外国人研究員が受講する等、日本語課外補講の受講生は増加し、その学習目的も多様化している。一方で、昨年度から授業数が減少し、受講生のレベルやニーズに合った授業を開講することが難しくなっている。授業アンケートや各教員からのフィードバックに基づいて、授業の改善、カリキュラムの評価・改善を行っていかなければならない。